

## 第 13 章 環境保全啓発事業・環境教育

### 1 環境保全啓発事業

#### (1) 環境月間

環境省では、環境基本法に定められた6月5日の「環境の日」を中心とする1ヶ月間を環境月間と定め、広く国民一般に環境活動への積極的な参加を普及啓発しています。本市においても、環境月間の趣旨を市民、事業所等に啓発するため、各種の行事を実施しています。

平成24年度の行事は、表13-1(1)のとおりです。

表 13-1(1) 環境月間行事内容

(平成24年度)

行 事 名	内 容	場 所 等
「環境の日」キャンペーン	地球温暖化、ごみ減量化、不法投棄防止などの環境保全意識高揚を図るため街頭啓発を実施	市内店舗4箇所
いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動	6月と10月に海岸、公園及び家庭周辺等の一斉清掃を実施。	市内全域 参加人数： 春：118,557人 秋：104,119人

#### (2) 再生可能エネルギー啓発事業

再生可能エネルギーについて理解を深めてもらうため、小中学生を対象とした副読本「みんなの再生可能エネルギータウン」の作成や出前講座「再生可能エネルギーって何？」の開催など、次世代を担う子供達をはじめ、市民への啓発事業を実施しています。

## 2 環境教育・普及啓発の推進

### (1) 環境アドバイザー派遣事業

本市では、環境に配慮したまちづくりを推進するため、自然とのふれあいや野外観察、健康な暮らし、緑化、省エネルギーや省資源の方法など、市民の皆様が自発的な環境保全活動に取り組むに当たって、参考となる知識を提供する「環境アドバイザー」を市内各地へ派遣しています。

平成23年度は東日本大震災の影響により事業を中止しておりましたが、平成24年度は事業を再開しました。

表 13-2(1)-1 環境アドバイザー派遣実績

年度	受講者数	派遣回数	派遣人数
平成19年度	1,611	44	72
平成20年度	1,563	40	58
平成21年度	2,086	55	88
平成22年度	1,910	50	75
平成24年度	1,016	24	30

#### ～環境アドバイザーの派遣申請等について～

市民のみなさまが市内において、参加者10人以上の環境に関する講演会や講習会、自然観察会を主催する場合、講師として「環境アドバイザー」を派遣しています。派遣を希望される方は開催予定日の30日前までに環境企画課までお申込みください。

また、「環境アドバイザー」として登録していただける方についても随時募集しておりますので、登録を希望される方は環境企画課までお問い合わせください。

#### 【お申込みにあたって】

- ▼ 講師の謝礼・交通費は市が負担しますが、会場・資料など開催に必要な準備は主催者にてご用意ください。
- ▼ 講演内容等の具体的な事項は、主催者とアドバイザーにて協議していただきます。
- ▼ 政治、宗教、営利を目的とした講演会等への派遣はいたしません。

表 13-2(1)-2 環境アドバイザー派遣内容一覧

(平成 25 年 9 月末現在)

分類	講演内容		講師氏名	
自然環境	自然観察・自然体験	自然観察会・自然体験活動指導等	古川 眞智子 鈴木 信一 野口 紘 草野 秀雄	
		自然環境学習	根本 輝男	
		ネイチャーゲーム指導	古川 眞智子	
		キャンプ指導	鈴木 信一	
		天体観察及び天体観測の解説及び指導 天体観測を通じた自然環境保全への啓発	桂 伸夫	
	環境教育	自然体験活動から始まる環境教育(森林・河川・海の環境)	野口 紘	
		子供達に必要な環境教育	石塚 諒	
		幼児期の自然体験活動の支援・指導 小・中学校での総合学習の支援・指導	草野 秀雄	
		環境学習の支援	鈴木 信一 草野 秀雄	
	自然環境	環境アセスメントについて 在来の環境認識を異なる視点で考える その時代の不安と感情を見つめる 衣服と環境に目を向けよう 人間と心の環境に触れよう 規範の逸脱から見える生活史 心の環境	山本 廣	
		植物	ハーブを育てることを通じて自然の営みを理解する	宮内 眞佐子
	生活環境	水質調査	水生生物による水質調査指導	大谷 善浩
川・海の水質調査指導			平川 英人	
生活排水・水環境		水環境の修復(雨水・中水利用含む)	青木 敏春	
		農業廃水路の環境教育	平川 英人	
		水環境と生活排水	栃内 賢一	
		水環境と生活との係わり	橋本 孝一	
		雨水の利活用	小林 健四郎	
ごみ・廃棄物		日常での身近な問題(海・地球の浄化について)	小林 健四郎	
		廃棄物処理対策(改定廃棄物処理法含む) リサイクル・リユース・リデュース・3Rの大切さを実践	青木 敏春 宮内 眞佐子	
		ゴミ問題	小林 健四郎	
公害・化学物質		家庭でできる生ごみの減量と有効利用(生ごみ堆肥化方法、EMぼかし法、段ボール箱・ト口箱利用等)	先崎 久美子 武田 憲子	
		大気、水質、騒音、振動、悪臭問題について	高木 力	
		土壌汚染問題とその対策	引地 宏	
		農薬の適正使用と環境への影響について	引地 宏	
省エネルギー・再生可能エネルギー		水道水の安全確保(放射性物質と農薬の汚染防止)	引地 宏	
		木材の利用状況と放射性物質の汚染木材の処理	引地 宏	
		国内排出量取引制度について	青木 敏春	
		再生可能エネルギーの導入支援(太陽光、風力、バイオマス、小水力)	青木 敏春	
		工場・ビル・家庭の省エネルギー診断	青木 敏春	
	再生可能エネルギーの利用と温暖化対策	引地 宏		
	風力推進車環境教育	平川 英人		
循環型社会 再生可能エネルギーの推進の必要性	石塚 諒			
都市環境	手作りソーラーパネル・手作りLDE街灯講習会	石塚 諒		
	マイクログ水力発電講習会	島村 守彦		
広域環境	都市公園の保全と散策による健康維持	引地 宏		
	エコアクション21への取組(環境経営システム構築)	青木 敏春		
	地球環境	地球温暖化防止活動	青木 敏春	
		地球温暖化と地球にやさしくらした(家庭での省エネルギー、環境家計簿の普及、ヒートアイランドとその対策)	栃内 賢一	
		地球環境問題と生活との係わり	橋本 孝一	
		地球温暖化・気温上昇の要因と今後の予測	石塚 諒	
		地球温暖化	小林 健四郎	
		地球温暖化について	根本 輝男	
自然エネルギー独立非常電源システム製作講習会	根本 輝男			

(2) 出前講座等

環境問題や公害防止に関して必要な知識の普及・啓発を図るため、市役所出前講座などに市職員を講師として派遣しています。

平成24年度の実施状況は、表13-2(2)のとおりです。

表13-2(2) 出前講座等への講師派遣実績 (平成24年度)

事業名	目的	開催場所	参加者人数
省エネで快適エコライフ	地球温暖化防止のため、家庭で資源やエネルギーを効率的に利用して、温室効果ガスの排出を出来るだけ少なくすることが必要であることを考えます。	いわき市立中央台南中学校	33人
地球温暖化を考えよう	地球規模の深刻な問題である地球温暖化について、その仕組みや私たちの生活に対する影響などを考えます。	いわき市立勿来第三小学校	14人
What's 新エネ	「新エネルギーとは何か」「なぜ新エネルギーが必要なのか」について学習します。	いわき市立内郷第三中学校ほか	46人
くらしと環境問題 “そしていわき市の環境 now”	環境問題、本市の環境・公害の現状等を知ることにより、環境保全に対する意識の高揚を図る。	いわき市立赤井中学校 外1カ所	計 151人
いわき市の環境を守る (施設見学)	環境監視センターを見学し、いわき市の環境保全と公害防止対策の現状について学ぶ。	いわき市立赤井中学校	11人

(3) せせらぎスクール

福島県では、例年、小中学校、高等学校、各種市民団体等を対象とした「水生生物による水質調査」を行う団体を『せせらぎスクール』として募集していましたが、東日本大震災により発生した放射能汚染等の問題により、平成23年度以降は募集を行っていません。事業の再開が決まりましたら、市ホームページ等でお知らせします。

なお、本事業概要は次のとおりです。

- ① 対象 小・中学生、高校生、各種団体等
- ② 実施時期 6月～9月末
- ③ 活動内容

川底から採取した水生生物について、定められている30種類の指標生物に照らし、その種類と数により水質を判定します。

④ 教材の提供

参加団体には、福島県から調査に必要な教材を提供します。

⑤ 活動状況

県内の延べ参加者数は7,895名で平成9年度から14年連続全国第一位であり、平成22年度における市内の延べ参加者数は742名となっています。

平成22年度の参加団体は、表13-2(3)のとおりです。

表13-2(3) 市内のせせらぎスクール参加団体

(平成22年度)

No.	団体名	参加人数
1	いわき市立久之浜第一小学校 5学年	51名
2	いわき市立上遠野小学校 第4学年1組	39名
3	いわき市立桶売中学校 第3学年選択理科	9名
4	いわき市立好間第一小学校 第5学年	85名
5	いわき市立川前小・中学校	20名
6	小川郷農地保全会	40名
7	かわせみ流域会	50名
8	下小川関場子供会	38名
9	福岡・環境を守る会	33名
10	上高久子供会	50名
11	いわき市立中央台北中学校	12名
12	福島県立勿来高等学校 理科研究部	10名
13	いわき市立沢渡小学校	37名
14	昌平高校エコクラブ	12名
15	いわき市立綴小学校	12名

#### (4) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、将来を担う子どもたちが主体的に行う環境保全活動や環境学習を支援するクラブです。

事業概要は、次のとおりです。また、本市における平成24年度の登録団体は、表13-2(4)のとおりです。

① 対象 幼児、小・中学生、高校生

② 実施時期 通年

#### ③ クラブの設立方法

● 1人から登録可能

● サポーター（大人）が1人以上必要

※ サポーターとは、クラブの活動を補助する大人（連絡係）のことです。

● こどもエコクラブ全国事務局への登録手続きが必要

#### ④ 教材の提供

活動のヒントとなる情報などが満載されたニュースレター（年4回）のほか、指導者向けプログラム等の支援ツールを提供します。

表 13-2(4) こどもエコクラブ登録団体

(平成 24 年度)

ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 人 数	グループの種類
昌平高校エコクラブ	クラブ員 20 人 サポーター 1 人	学校・学年
ケロケロクラブ	クラブ員 2 人 サポーター 2 人	家族・親戚
いわき市立石住小中学校 環境美化委員会	クラブ員 4 人 サポーター 8 人	学校・委員会

(5) 星空観察会

全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）は、参加者に光害や大気汚染などのない清澄な大気への関心を高めてもらうことを目的に、全国各地で一斉に肉眼、双眼鏡、カメラを使った身近な方法によって星空観察を行うもので、昭和 63 年（1988 年）から、毎年 2 回（夏期及び冬期）実施している事業です。

本市における平成 24 年度の実施状況は、表 13-2(5)のとおりです。

表 13-2(5) 星空観察会実施団体

(平成 24 年度)

NO.	団 体 名	場 所	参加者数
1	いわき天文同好会	いわき市高久公民館	夏:36 人 冬:29 人

(6) 環境にやさしいくらしかたをすすめる会

平成 13 年 10 月、いわき市の環境に配慮したまちづくりを推進するための組織として、市民団体を中心に「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」が設立されました。

「環境にやさしいくらしかたをすすめる会」では、次のことを重点に様々な事業活動を実施しています。

- ① 環境情報の提供
- ② 環境にやさしいくらしづくりを推進するための啓発事業の実施
- ③ 市民の環境保全活動に対する支援活動の実施